

平成 22 年 3 月 18 日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）

研究期間：2008～2009

課題番号：20830010

研究課題名（和文） 偏った自己認知における情報処理メカニズム

研究課題名（英文） Information processing mechanism in biased self-perception

研究代表者

外山 美樹（TOYAMA MIKI）

筑波大学・大学院人間総合科学研究科・准教授

研究者番号：30457668

研究成果の概要（和文）：

ポジティブ認知、ネガティブ認知といった偏った自己認知を行う個人の情報処理のメカニズムについて明らかにすることを目的にした。具体的には、学業達成に影響を及ぼす認知的方略（防衛的悲観主義と方略的楽観主義）の機能について検討した。本研究の結果より、防衛的悲観主義者と方略的楽観主義者とは、学業達成につながるプロセスが異なることが示された。防衛的悲観主義者はメタ認知方略を多く用い、そのメタ認知方略を使用することが高いパフォーマンスにつながることを示された。一方、方略的楽観主義者はメタ認知方略の使用が学業達成には影響せず、学習時間が多いことが高いパフォーマンスを保つことができる理由だと考えられた。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study was to examine the role of the cognitive strategies of defensive pessimists, that is, college students who recognize positive past experience but have low expectations for future outcomes and strategic optimists, college students who acknowledge generally positive past experiences and expect positive outcomes in the future, in college students' academic performance. The findings indicated that defensive pessimists and strategic optimist's processes that led to the academic achievement were different. It was shown that a defensive pessimist used a lot of meta-cognition strategy and using the meta-cognition strategy led to a high academic achievement. In contrast, it was clarified to the academic achievement not to influence it in the strategic optimists. For strategic optimist, it was suggested that it tended the academic achievement high because there was a lot of study time.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,370,000	411,000	1,781,000
2009年度	1,170,000	351,000	1,521,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,540,000	762,000	3,302,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会心理学

キーワード：自己認知、情報処理、防衛的悲観主義、方略的楽観主義、学業達成、達成目標、大学生

1. 研究開始当初の背景

近年、防衛的悲観主義（過去の似たような状況において良い成績を修めているにも関わらず、これから迎える遂行場面に対して低い期待をもつ認知的方略）に関する研究が活発である（Elliot & Chursh, 2003）。防衛的悲観主義が注目されている理由の1つには、物事を“悪い方に考える”ことで成功している適応的な悲観者、すなわち防衛的悲観主義者の存在によって、これまで精神的不健康やパフォーマンスの低下に直結していると指摘されていた悲観主義が、肯定的に作用する場合もあることを実証したことが挙げられる。

2. 研究の目的

(1) 防衛的悲観主義と方略的楽観主義（過去の高いパフォーマンスに対する認知と一致した高い期待をもつ認知的方略）は、パフォーマンスを高める認知的方略であることが示されている（外山・市原, 2008）が、なぜ、これら認知的方略が高いパフォーマンスを示すのか、そのメカニズムについてはこれまで組織的に検討されていない。そこで本研究では、認知的方略が学業達成に影響を及ぼすメカニズムについて検討することを目的とした。

(2) Elliot & Church (2003) によれば、防衛的悲観主義にはいくつかのタイプが存在し、タイプによってパフォーマンスや精神的健康への影響が異なる可能性を示唆している。しかし、これまで防衛的悲観主義をタイプ化して検討した研究は、見当たらない。そこで、本研究では、達成目標によって防衛的悲観主義をタイプ化して検討することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 被調査者 大学2, 3年生269名（男子188名, 女子81名）。

(2) 手続き 以下の質問紙が、学期末テストの3週間前に集団形式で実施された。

(3) 質問紙 ①認知的方略尺度（原案）：Norem (2001) の防衛的悲観主義を測定する尺度（The Revised Defensive Pessimism Questionnaire; DPQ）を翻訳したものを使用した。判別項目1項目を含む計13項目から成る尺度で、5段階評定で回答を求めた。②セルフ・ハンディキャップ尺度：沼崎・小口（1990）のセルフ・ハンディキャッピング尺度を用いた。23項目から成り、6段階評定である。③メタ認知尺度：市原・新井（2006）

のメタ認知尺度を用いた。9項目から成り、6段階評定である。項目例としては、“勉強を始める前に、これから何をどうやって勉強するかを考える”、“勉強する時は、大切なところはどこかを考えながら勉強する”がある。④達成目標尺度：習得接近目標（“授業中は、できるだけたくさんのことを勉強したい”など）、遂行接近目標（“他の学生より良い成績や評価をとることは、自分にとって大切なことです”など）、遂行回避目標（“他の学生より、テストやレポートで、悪い成績や評価をとらないようにしたい”など）、そして習得回避目標（“できるだけ努力しないで、大学の定期試験を受けようとする”など）の4つの下位尺度各4項目の計16項目から成り、6段階評定で回答を求めた。⑤状態不安尺度：清水・今栄（1981）の状態一特性不安検査日本語版を用いた。20項目から成り、4段階評定である。

(4) 学業成績 学業成績は、学期末に実施された“教育心理学”のテスト得点（標準化した得点）を用いた。

(5) 学習時間 テスト対策問題として筆者が作成した“自己学習教材”を使ってインターネットで学習した時間を学習時間の指標として用いた。

4. 研究成果

(1) 認知的方略尺度（原案）の因子分析

認知的方略尺度（原案）の判別項目を除く12項目における因子分析（最尤法→プロマックス回転）の結果に基づき、『悲観的認知（ $\alpha = .72$ ）』と、『楽観的認知（ $\alpha = .70$ ）』の2つの下位尺度を構成した。

(2) 群の設定

判別項目（“過去の同じような状況では、だいたい私はちゃんとうまくやってきた”）、悲観的認知、そして楽観的認知の各標準得点に基づいたクラスター分析（ウォード法）を用いて、楽観主義群（RO）、方略的楽観主義群（SO）、悲観主義群（RP）、防衛的悲観主義群（DP）の4群を設定した。

(3) 群別における方略と学業達成の関連性

群別に方略と学業達成の関連性を検討した（Figure 1 参照）。その結果、モデルの適合度指標は $\chi^2(19) = 19.06$, CFI = .98, RMSEA = .02 であり、モデルが十分にデータを説明していると判断した。

メタ認知から学業成績のパスを検討してみると、SOを除く3群において、メタ認知が学業成績に

正の影響を示した。メタ認知から学習時間のパスにおいては、RO と SO では負の影響が、一方、DP においては正の影響が見られた。そして、セルフハンディキャップから学業成績のパスは、SO においてのみ負の影響がみられた。なお、学習時間から学業成績のパスは、4 群ともに有意な正の影響を示したが、その影響力は特に SO において強かった (.45)。

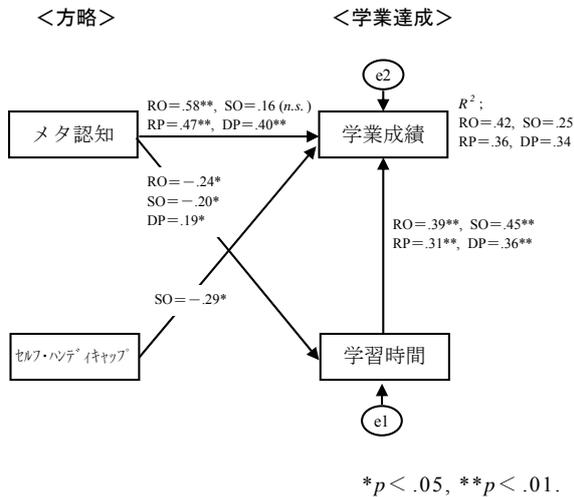


Figure 1 群別における方略と学業達成の関連性

(4) 防衛的悲観主義群のタイプ化

まず、外山 (2009) の手続きに準拠し、防衛的悲観主義者を抽出した。次に、達成目標の各標準得点に基づいたクラスター分析 (ワード法) を用いて、“習得回避高群”、“達成目標高群”そして“習得回避低群”の3群を設定した (Figure 2)。

次に、不安得点を従属変数とした群 (3) × 時期 (2) の2要因分散分析を行ったところ (Figure 3 参照)、交互作用が有意となった ($F(2, 60) = 3.16, p < .05$)。そこで各要因の単純主効果を分析した結果、テスト前2～3日において習得回避高群が習得回避低群よりも不安得点が高かった。また、習得回避高群において、テスト前3週間よりもテスト前2～3日において不安得点が高いことが示された。

さらに、各尺度において3群間で差がみられるのかどうか、一元配置による分散分析を行ったところ、メタ認知ならびに学業成績では、習得回避高群が他の2群よりも得点が低いことが示された。学業成績においては、達成目標高群 (0.48) ならびに習得回避低群 (0.44) が平均よりも得点が高いのに対して、習得回避高群は、平均よりも下回っていた (-0.42)。また、習得回避高群が習得回避低群よりも学習時間が短く、セルフ・ハンディキャップ得点が高いことが示された。

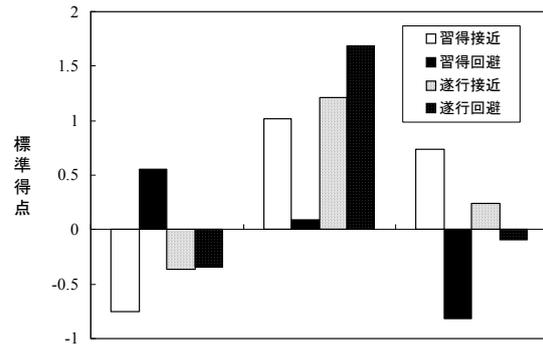


Figure 2 (学業達成に影響を及ぼす認知的方略)

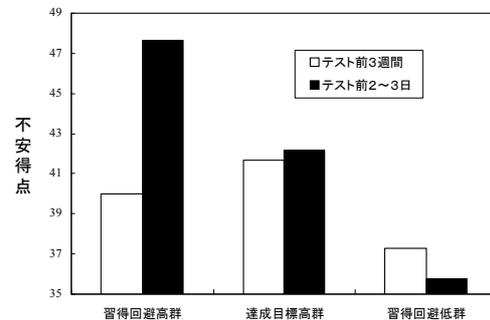


Figure 3 (学業達成に影響を及ぼす認知的方略)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 外山美樹 (2009). 社会的比較が学業成績に影響を及ぼす因果プロセスの検討—感情と行動を媒介にして—パーソナリティ研究, 17, 168-181. 査読有
- ② 中谷素之・野崎秀正・外山美樹・出口拓彦・黒田祐二・藤村宣之・桜井茂男 (2009). 友人関係と動機づけ過程—ソーシャル・モチベーション研究, 5, 67-90. 査読有

[学会発表] (計2件)

- ① 外山美樹・市原学 防衛的悲観主義者は適応的か? 日本教育心理学会第51回大会発表論文集, 46. 2009年9月20日, 静岡大学
- ② 外山美樹 学業達成に影響を及ぼす認知的方略—防衛的悲観主義と方略的楽観主義— 日本心理学会第73回大会発表論文集, 1026. 2009年8月28日, 立命館大学

〔図書〕（計2件）

- ①海保博之・中込四郎・石崎一記・外山美樹 (2010). ワードマップ ポジティブマインドスポーツと健康、積極的な生き方の心理学― 新曜社 P.139-207.
- ②外山紀子・外山美樹 (2010) . やさしい発達と学習 有斐閣 P.115-228, P.251-272.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

外山 美樹 (TOYAMA MIKI)
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・
准教授
研究者番号：30457668

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし